

## 編集後記

今号においては、戦後70年記念号にふさわしく、林博史氏の「加害と被害の重層構造—日本人の戦争体験をとらえ直す」や白井聡氏の「永統敗戦レジームと安倍政権」など読み応えのある論文が掲載されています。国際的な記事としては、浪指拓央氏が国連平和大学について執筆されています。

2015年はネパールでアジア太平洋平和研究学会が開催され、平和博物館を通じた平和教育について議論されました。またコスタリカ国立大学やアメリカのウィルミントン大学平和資料センターにおいて、平和博物館における平和教育について紹介するよう依頼があり、海外で国際平和ミュージアムを紹介しました。

さらに本誌の他に英国で出版されている学術誌Journal of Peace Educationでは、平和博物館における平和教育について、Dr. Peter van den Dungen（平和のための博物館国際ネットワーク代表）と筆者が特集を組みました。そこで国際平和ミュージアムのボランティアガイド谷川佳子氏が、ガイドの役割について執筆されました。また日本平和学会研究集会在琉球大学で開催され、沖縄の平和博物館に関するワークショップがもたれました。

このように国内外で平和博物館における平和教育について議論が進んでいます。

国際平和ミュージアムでは平和研究センターを設置する動きが遅れていますが、今後は是非実現をし、平和研究に基いた平和教育を推進していく必要があると考えています。

編集委員長（国際平和ミュージアム副館長） 山根和代

### 投稿へのお誘い

1. 立命館平和研究—立命館大学国際平和ミュージアム紀要—では、以下にあげるような、広義の平和に関する研究論文又は学術実践報告の投稿を求めます。

- ・平和に関する学術研究
- ・平和に関する教育実践報告
- ・博物館活動
- ・博学連携

2. 種類と分量

掲載記事の種類と分量は、下記のとおりとし、編集委員会で決定、または承認されたものとしします。

フォーマットは40字×30行とします。

- |         |                 |
|---------|-----------------|
| ①論文     | 12,000字～40,000字 |
| ②資料紹介   | 4,000字～20,000字  |
| ③研究ノート  | 4,000字～16,000字  |
| ④書評     | 4,000字～8,000字   |
| ⑤調査・研究  | 4,000字～20,000字  |
| ⑥実践報告   | 4,000字～20,000字  |
| ⑦研究展望   | 4,000字～12,000字  |
| ⑧時評・コラム | 4,000字～6,000字   |

3. 言語

原則として日本語、横書き、テキスト形式によるもの。

英文の原稿については、事前に編集委員会にご相談ください。

4. スケジュール

7月第1土曜日…原稿応募申込締切り

以下の情報をファックス又は郵送

（ファックス書面又は封筒に朱書きで「立命館平和研究」応募と明記すること）

- ①論文の題名（仮題でも可）、②種類、③日本語要旨、④分量

↓

9月末日…原稿締切り

※受取方法：郵送のみ。封筒に朱書きで「立命館平和研究原稿在中」と明記すること。

※提出物：完成原稿と日本語要旨（200字程度）と英語タイトルと英語要旨（250字程度）を印刷とデジタルデータで提出。

↓

3月上旬…刊行（予定）

5. 投稿原稿については、編集委員会が審議し、掲載、一部書き直し、返却（掲載不可）などの結果を原稿締切り後3ヶ月以内に投稿者に連絡します。

6. 二重投稿はお断りします。

7. 論文に画像を掲載するなど、著作権許諾が必要な記事については投稿者が責任を持って許諾を得ること。

8. 備考

原稿料はお出ししません。

掲載原稿1編につき、本誌5部、抜刷りを30部進呈します。

9. 原稿提出先・お問合せ先

立命館大学国際平和ミュージアム

立命館平和研究編集委員会

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

TEL：075-465-8151 FAX：075-465-7899